（協働版）

※（協働版）とは…

　プロファイルを作成した27箇所の歴史的資産周辺において，地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため，ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ，その地域固有の歴史的資産の特徴，まちの成り立ち，歴史，文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです。

■御室学区
1　仁和寺周辺

凡例：まち歩きやヒアリングによる情報等
文献等による情報

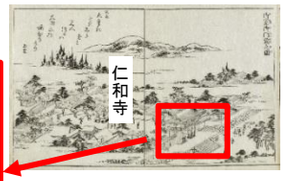
自然・環境

1

仁和寺門前から京福電鉄の線路をまたいだ先まで，今も残る松並木

2

仁和寺には珍しい緑色の桜，御衣黄（ぎょいこう）が何本かある。



門前や境内にも松が多く見られる。
「都名所図会（御室御門前之図）」安永9年（1780）

3

昔は小川が表出していたが，現在は地下を流れ，天神川につながる。石組みは川岸だったころの土手の名残り。
線路の下では流れる川が見える。

4

双ヶ岡は遠くからでも緑の稜線を望むことができ，自然の豊かさを印象付けている。地域の人にとって馴染み深い。
昔は赤松がたくさん生えていて，松茸がとれた。

歴史・物語

5 馬をつなぎ留める馬場（ばんば）があった。人々はここで馬から降り，仁和寺に向かった。

6 京福電鉄の北側は，昭和２年（1927）頃に開発され，双和郷と称された住宅地であった。1-1)

双和郷の記憶を残す稲荷社。

7 ６とあわせ，昭和初期の開発時，周辺に松竹第２撮影所やマキノ撮影所などの撮影所があることから映画関係者が多く住んでいた。

8

屋敷神のお稲荷さん。きちんと管理され，綺麗に保たれている。

9

御室芝橋地蔵堂

10

金岡の馬
仁和寺清涼殿にあったと伝わる障子に，平安時代前期の宮廷画家である巨勢金岡が描いた馬が，夜な夜な絵から抜け出るという伝説があった。
←NPO京都の文化を映像で記録する会　提供

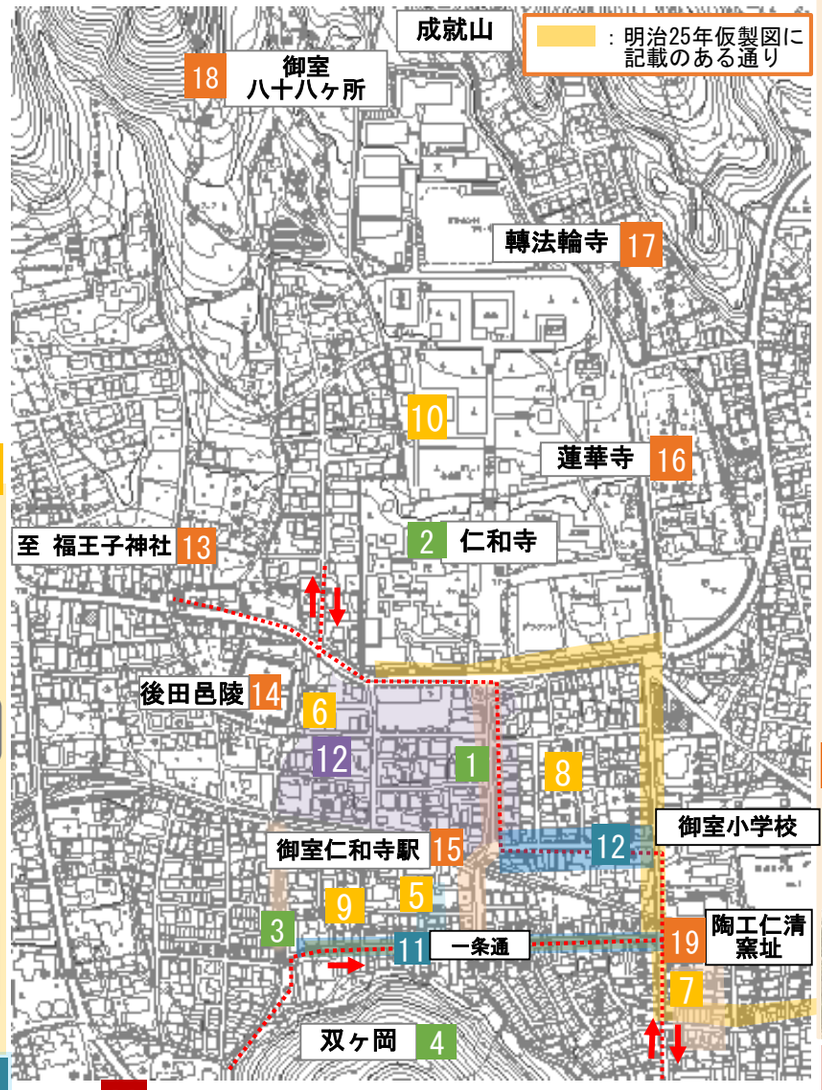
町並み・風景

11

一条通沿いがかつての御室村の中心であった。沿道に点在する町家が名残を残している。愛宕参りの参道でもあり，大正時代にはメインストリートであった。
街道沿いであり，間口の広い厨子二階（二階部分の天井が低い）町家が建ち並んでいる。
一条通から仁和寺へ向かうと景色が素晴らしい。

【周辺の特徴】
・古くは御室門前村のエリア。
・明治維新の頃まで，門前の一部は仁和寺の寺領であった。
・門前は現嵐電の開通（大正15年）をきっかけに開発された，昭和初期の住宅地を中心とし，周辺には映画の撮影所も点在することから，映画関係者も多く居住していた。
・大きな敷地割りの住宅が建ち並び，庭の植栽や生垣などの緑が豊かな静かでゆったりとした道が連続している。
・社寺や御陵なども住宅地の中に点在している。

御室の地名の由来…
延喜4年（904）宇多法皇が仁和寺内に御室（御座所）を営んだ。御室とは僧房のことであり，法皇が御座する「室」なるがゆえに，御室と呼ばれた。仁和寺周辺の地も御室と呼ぶようになり，村名にもなった。 1-8)



20 ……… 福王子神社のおみこしが通るルート

12

ゆったりとした家の庭の木々や，生垣による道路沿いの緑が多い町並み。道幅は広く，車が少なくて歩きやすい。
大正15年の北野線開通以降に市街化が進んだ地域。広い敷地に，豊かな植栽が多く確保された，和風住宅が建ち並んでいる。

地域コミュニティ・地域貢献

12 仁和寺門前まちづくり協議会地区では，良好な住環境を守るために，地域住民が主体となって，まちづくりに取り組んでいる。

歴史的資産・建物

13

福王子神社
神社名は班子女王が多くの皇子皇女を生んだ事に由来する。仁和寺の守護神であり禎村の氏神。1-2)

14

光孝天皇　後田邑陵
大小の木々に囲まれた緑豊かな空間。近くの道からも望むことができる。

御室学区に御陵が多いのは…
双ヶ岡は，平安初期から天皇の遊猟地で，風向明媚な景勝地として名高かった。山ろくには貴族たちが山荘を営み，天安年中（857～859）に夏野の山荘跡に双丘寺（天安寺）が創設され，これを皮切りに仁和寺等の皇室ゆかりの多くの寺院が建立された結果，御陵も多く広がっていったと考えられる。 1-3)

15 駅前からも双ヶ岡が見え，自然に囲まれているよう。駅舎は「近畿の駅百選」に選定。

現在の駅舎

昭和初期の駅舎

16

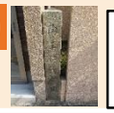
蓮華寺
天喜5年（1057）に藤原康基が開創。石仏を集めて境内に安置された石仏群は壮観。きゅうり封じの法要で知られる。 1-4)

17

轉法輪寺
浄土宗知恩院派の寺院。昭和4年（1929）に現在地に移転した。本尊である阿弥陀如来座像は御室大仏とも呼ばれ，木造の座像では京都で最大である。1-5)
阿弥陀如来座像を北野天満宮近くから御室に運ぶ際には，市電の電線を一部切ったり，長い竹竿で持ち上げて運んだといわれている。

18

御室八十八ヶ所
誰もが気軽に巡拝できるように，仁和寺の済仁法親王が，文政８年（1825）に四国の各霊場本堂下の砂を持ち帰り，四国八十八ヶ所を模して成就山に小堂を建てたのが始まりとされている。地域の人達をはじめ多くの人々に巡拝されている。

19

陶工仁清窯址
野々村仁清が御室焼をひらいた窯跡。1-7)

伝統・文化

20

福王子神社の御神輿の巡行先の各６か村では，毎年鉾宿が設けられ，各保管の剣鉾が飾られてお祭が行われる。御神輿の担ぎ手は氏子に限られ，福王子神社の法被を着て所属の村の色帯を結び，誇りを持って担がれる。

※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。
京都市　景観情報共有システム　検索

■御室学区
2　双ヶ岡東

凡例：まち歩きやヒアリングによる情報等／文献等による情報

自然・環境

1

双ヶ岡，法金剛院（特別名勝），花園西陵の山々，自然に囲まれた自然豊かな空間。双ヶ岡と法金剛院の庭園が連続して地域のオアシス的な存在となっている。

2

西ノ川では蛍が飛び，周辺の住宅地では，モリアオガエルが庭に来たり，オニヤンマが飛んでいるなど，自然が豊かな地域である。

3

双ヶ岡の保全
1964年，双ヶ岡のホテル建設用地としての売却構想が持ち上がったが，地元住民を中心とする建設反対の声もあり，開発の危機は回避された。
この開発問題が契機となり，1966年に古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（古都保存法）が制定された。2-1)

地域コミュニティ・地域貢献

4

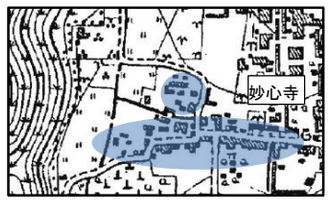
双ヶ岡保存会の活動
地域住民の団体である双ヶ岡保存会では，年に100回以上清掃活動を行っている。双ヶ岡は地域のシンボルとして大切にされている。

町並み・風景

5

妙心寺の土塀と一体となった歴史的な町並みが現在も残っている。

妙心寺南
「仮製図」明治25年（1892）から，妙心寺道を中心に建物が建ち並んでいる様子が伺える。「正式図」大正元年(1912)からは，さらに町並みが発展した様子がわかる。



「仮製図」明治25年(1892)

「正式図」大正元年(1912)

6

邸宅の長屋門（長屋の一部を門にした建物）や戦前に建てられた住宅が残っている。

【周辺の特徴】
・双ヶ岡と妙心寺にはさまれた地域にひろがる住宅地。
・オムロン発祥の地も住宅地に。
・見上げれば双ヶ岡。とても身近に見える。
・西ノ川やまちの緑など落ち着いた雰囲気。
・まちの中に社寺や御陵などの旧跡が多く残る。

※御室学区以外のものも含みます。

花園の地名の由来…
花園の地名のおこりは，平安時代に貴族の清原夏野がこの地に営んだ山荘の庭園に万花を植えたことにちなむと言われている。2-2)

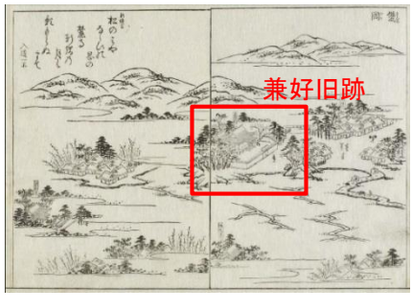
※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。
京都市　景観情報共有システム　検索

歴史的資産・建物

7

今宮神社
かつては祇花園社，または花園社とも呼ばれた。都の疫病を機に長和４年（1015年）に創祀された。現在は花園・安井一帯の産土神で，秋のお祭りでは御神輿，子ども神輿も巡行する。

8



「都名所図会（雙岡）」安永9年(1780)

長泉寺
双ヶ岡東麓にある浄土宗の寺院で吉田兼好とゆかりが深く，兼好の墓と伝わる「兼好塚」が境内にある。
門前に「兼好法師舊跡」の石標が建ち，江戸中期に双ヶ岡の二の丘から移設されたことが「都名所図会」に記されている。2-4)

9

兼好法師の旧跡
吉田神社神職の家に生まれた卜部(吉田)兼好は，晩年，仁和寺近辺(双ヶ丘二の丘西麓)に草庵を結んだ。この石標はその庵跡を示すものである。
兼好法師の作と言われている徒然草にも仁和寺周辺の記載が多く見られる。2-5)

10

尊称皇后統子内親王花園東陵
法金剛院の北東に平安後期の上西門院（鳥羽天皇の第二皇女）が葬られている。

11

五位山古墳
法金剛院背後の低い丘で，地元の人々にもなじみが深い。山頂に古墳があったが現在はない。

12

西光庵
向阿（こうあ）上人ゆかりの寺として知られる。鎌倉時代に向阿上人がこの地に庵を結んだという。「都各所図会」に“西光房”として描かれている。2-6)

「都名所図会（雙岡）」安永9年(1780)

歴史・物語

13

日本キネマ撮影所跡地
1928年，貸スタジオとして設立。別名「双ヶ岡撮影所」。1935年に「松竹第二撮影所」に名称変更された。1945年には立石電機（現オムロン）の工場となるが，敷地の一部で制作を続けた。
「オムロン」の企業名は，御室の地名を取って名付けられた。オムロン発祥の地は現在，「和のまち御室」という住宅地となっている。2-7)

■御室学区
3　龍安寺南

凡例：
- まち歩きやヒアリングによる情報等
- 文献等による情報

自然・環境

1

2

3

4

5

「きぬかけの路」は1963年に開通。
北側には石垣と樹木が連続し，自然を感じられる。京都マラソンのコースにもなっている。1991年に「きぬかけの路推進協議会」が発起人となり，路の愛称を公募し，宇多天皇が真夏に雪見をするために衣笠山に絹を掛けたと伝えられる故事にちなんだ「きぬかけの路」が選ばれた。3-1)

北を向くと，衣笠山を背景とした風景が望める。

西ノ川では蛍が見られる。

西ノ川より西のエリアは，石垣や石積みが多い。

周囲から丘状に高くなっており，東には東山や市街地が見渡せる。石垣と植栽が道路に沿って続く。

龍安寺のしだれ桜はとても美しい。

歴史的資産・建物

6

龍安寺御陵道の石碑
左：二条天皇陵，一条天皇陵，
　　光孝天皇陵
中：龍安寺御陵道
右：龍安寺駅妙心寺方面道標　3-2)

7

住吉大伴神社
龍安寺・谷口一帯の産土神。大伴氏の氏神である伴氏（ともうじ）神社に，大伴氏衰退後，藤原一門である徳大寺家が住吉神を勧請した。
神幸祭では，地元の大人や子供たちによる力強い太鼓の演奏が行われる。3-3)

8

御室撮影所跡
大正14年（1925）マキノ省三が建設したものでマキノ撮影所とも呼ばれた。3-4)

9

奉納歌「衣笠の麓に座す地蔵尊　病み患いを救わせ給へ」が祀られている。

多福院（写真右）
文明14（1482）年鉄船宗熙（てっせんそうき）により，妙心寺の塔頭として開かれた。
北隣には，お地蔵さんも祀られている。3-5)

【周辺の特徴】
・南北の通りから見る衣笠山が美しい。
・まちなかにも植栽や石垣があり，閑静な雰囲気である
・各寺院と洛中を結ぶ街道や，参詣道など交通の要所となる一条通沿いには，古い町並みが残る。
・龍安寺参道（商店街）には，昭和初期には建物が建ち並んでおり，町家が多く残る。

谷口の地名の由来…
大内山と衣笠山間の峡谷の入り口に位置していることから，谷口と称されていた。現在にもその名が残る。1450年に龍安寺が創立され，1452年に龍安寺領となってから龍安寺門前村と称された。3-6)

町並み・風景

10

軒裏が特徴的な商店が建ち並ぶ。
現在は改修等により建物のデザインが変わってしまっている町家も多いが，軒裏を見ると伝統的な構造がわかる。

龍安寺参道商店街の成り立ち
大正14年（1925年）に竜安寺道駅（現龍安寺駅）が出来，以前からあった龍安寺に通じる御陵道沿いに商店が建ち並び，商店街として栄えるようになった。

11

妙心寺の白い塀が特徴的。

妙心寺の北門前の一条通沿道には，古い建物が続く。和菓子，お茶，お花などお寺と関連があるお店が並んでいる。

土塀や門，石積みや生垣，ゆったりとした前庭が続いている。瓦屋根と深い軒を持つ日本家屋が多い。

等持院の南から龍安寺に至る道は，明治元年の京町御絵図ですでに確認でき，古くからあった道であることがわかる。3-7)

京町御絵図　明治元年（1868年）

地域コミュニティ・地域貢献

12

龍安寺参道商店街は，お祭り（春，秋），「花街道プロジェクト」で商店街活性化に取り組んでいる。「花街道プロジェクト」は花のプランターを龍安寺駅から商店街全体にまで並べるもので，京都市環境賞を受賞している。
平成28年からは大学生と「龍の絵コンテスト」の取組も始まっている。

13

朱山七陵
龍安寺後方の朱山に散在する天皇・皇后陵。龍安寺北，朱山麓に後三条天皇陵，後冷泉天皇陵・後朱雀天皇陵が並び，その東に禎子内親王陵，更にその北東に一条天皇陵・堀河天皇陵があり，近くの円融天皇火葬所を合わせて龍安寺七陵とも，朱雀七陵とも呼ぶ。3-8)

※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。
京都市　景観情報共有システム　検索

1　仁和寺周辺

1-1　「都名所図絵(御室御門前之図)」安永9年(1780)
1-2　京都大辞典　淡交社　1984　佐和隆研　ほか編集
1-3　「史料京都の歴史第14巻右京区」(平成6年)　平凡社
1-4　「角川日本地名大辞典　26京都府上巻」(昭和57年)　角川日本地名大辞典
1-5　轉法輪寺HP
1-6　嵐電北野沿線「駅から散策マップ」解説書　立命館大学　京都観光学生・留学生ネット
1-7　フィールドミュージアム京都HP
1-8　「史料京都の歴史第14巻右京区」(平成6年)　平凡社

2　双ヶ岡東

2-1　京都の景観　京都市都市計画局都市景観部景観政策課
2-2　「史料京都の歴史第14巻右京区」(平成6年)　平凡社
2-3　「京都市の地名」(昭和54年)　平凡社
2-4　「京都市の地名」(昭和54年)　平凡社、「都名所図会」
2-5　フィールドミュージアム京都HP
2-6　「都名所図会」、「京都大事典」(昭和59年)　淡交社
2-7　京都映像文化デジタルアーカイブHP

3　龍安寺南

3-1　きぬかけの路・きぬかけの路推進協議会HP
3-2　フィールドミュージアム京都HP
3-3　「京都市の地名」(昭和54年)　平凡社
3-4　京都映像文化デジタルアーカイブHP
3-5　多福院公式ブログ
3-6　「史料京都の歴史第14巻右京区」(平成6年)　平凡社
3-7　「京町御絵図細見大成」(慶応4年/明治元年)
3-8　「京都市の地名」(昭和54年)　平凡社

※ 最終更新日:2019年6月28日